記載例

第26号様式（第15関係）（用紙　日本産業規格A４縦長型）

特別採捕許可申請書

　　　　　　　年　　月　　日

　神奈川県知事　　　　　　様

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〇〇市××区１－２－３

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　氏名（法人にあっては、名称及び代表者氏名）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　名称及び代表者氏名（←法人の場合「氏名」としない）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　株式会社〇〇調査研究所

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　代表取締役社長　〇〇　〇〇

　次のとおり試験研究等を目的とした水産動植物の採捕の許可を受けたいので、神奈川県漁業調整規則第45条第２項の規定により申請します。

　１　目的

　　※調査計画書に記載された目的を簡潔に記載します。

記載例１：〇県環境研究所の委託による「〇〇環境調査」の一環として〇〇海岸の護岸整備工事が自然環境へ与える影響を調査把握するため周辺の底生生物等の採捕を行う。

記載例２：〇〇湾の底曳き網漁業対象種の稚魚・稚貝の分布状況を把握するため、底曳網による生物採取を行う。

　２　適用除外の許可を必要とする事項

神奈川県漁業調整規則第３８条第１項及び第４１条第１号

（例：採泥器等の規則第４１条第1項「遊漁者等の漁具又は漁法の制限」の対象となっている漁具によって、規則第３８条第１項で制限されている「殻長２ｃｍ以下のアサリ」を採捕する場合）

　　※適用除外する主な条項は次のとおりですが、神奈川県漁業調整規則本文を参照してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 漁業調整規則 | 項目 |
| 第３５条 | 漁具漁法の禁止及び制限 |
| 第３６条 | 漁具又は漁法の範囲 |
| 第３７条 | 河川における禁止区域等 |
| 第３８条 | 水産動物の大きさ毎の禁止期間、禁止区域 |
| 第４１条 | 遊漁者等の漁具又は漁法の制限 |

　３　使用船舶

　　(1)　船名 〇〇丸

　　(2)　漁船登録番号　KN3-\*\*\*\*

　　(3)　総トン数　1.1トン

　　(4)　推進機関の種類及び馬力数　船外機（電気点火）30kW

　　(5)　所有者名　〇〇　××

　　※漁船の場合は漁船登録番号をご記載ください。漁船でない船舶を使用される場合は、船舶番号をご記載ください。使用船舶の各項目は「漁船登録票」の記載内容をご記入ください。

ただし、小型船舶等「漁ろう以外の用途にも用いる船舶」であっても漁船登録がされいる場合は、申請書には、漁船登録番号を記載してください。

　　※複数船舶がある場合は、別表としてもかまいません。

（別表とした場合の記載例）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| (1)　船名 | 〇〇丸 | ××丸 | ■■丸 |
| (2)　漁船登録番号 | KN3-\*\*\*\* | 第23\*-\*\*\*\* | KN2-\*\*\*\* |
| (3)　総トン数 | 1.1トン | 4.9トン | 19t |
| (4)　推進機関の種類及び馬力数 | 船外機（電気点火）30kW | － | ディーゼル450kW |
| (5)　所有者名 | 〇〇　×× | (株)×× | 〇〇大学 |

　　※本県登録の漁船であれば漁船登録簿は不要ですが、他県登録漁船を用いる場合、漁船以外の場合、申請者と船舶所有者が異なる場合等、それぞれ必要な書類がありますので、《特別採捕許可申請を行う際に必要な書類》を御確認ください。

　４　採捕しようとする水産動植物の名称及び数量（種苗の採捕の場合は、供給先及びその数量。）

　　　魚類●●㎏以下、底生生物（アサリ、ハマグリ）●●㎏以下、水産動植物●●㎏以下　など

※採捕数量は調査に必要な範囲で、余裕をもたせた数値をご記入ください。また、調査を行う漁法で採捕される可能性があるものを含めてください。

採捕したのち放流をしたとしても、一旦採捕したものは採捕数量に含まれます。

　例１：アサリを10kg採捕したが、許可採捕数量枠が５kgだったため、５kg分は放流をした。

　例２：「魚類〇〇ｋｇ以下」と申請したが、貝類などの底生生物が採捕されたので放流した。

　　　⇒いずれも、違反となります。

　特定水産動植物として指定されている「なまこ、あわび」を採捕する場合、また、「なまこ、あわび」を採捕の目的としていなくても、採泥器、底びき網等底生生物を対象とする漁具・漁法を用いる場合、混獲してしまう可能性があるため、特定水産動植物採捕許可の手続きもあわせて必要となります。

「特定水産動植物採捕許可の申請について」

（https://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/tokuteisaiho.html）を参照してください。

　５　採捕期間

　　　記載例１）

許可日から令和〇年〇月〇日まで

　　　記載例２）

　　　　令和〇年〇月〇日から令和〇年〇月〇日まで

　　　記載例３）

　　　　令和〇年〇月〇日から令和〇年〇月〇日までのうち〇日以内

※採捕期間は、原則として１年以内です。

　６　採捕区域

（主に海面で採捕を行う場合）

　　　記載例１）

　　　　千葉県富津市富津岬突端正西線以北の東京湾の区域のうちの神奈川県海面（共第１号共同漁業権の漁場の区域を除く）

　　　記載例２）

　　　　共第〇号共同漁業権の区域

　　　記載例３）

　　　　イ　北緯35°\*\*′\*\*″　東経139°\*\*′\*\*″

ロ　北緯35°\*\*′\*\*″　東経139°\*\*′\*\*″

ハ　北緯35°\*\*′\*\*″　東経139°\*\*′\*\*″

二　北緯35°\*\*′\*\*″　東経139°\*\*′\*\*″

上記イロ、ロハ、ハニ及びニイを順次結んだ直線により囲まれた区域のうち神奈川県海面

記載例４）

北緯35度\*\*分\*\*秒、東経139度\*\*分\*\*秒

上記の点を中心とした半径\*00mの円に囲まれた区域のうち神奈川県海面

（主に河川等で採捕を行う場合）

　※　河川での採捕の場合、緯度経度の記載は不要ですが、「〇〇橋橋脚下流端」等明確にわかる目印を用いてください。

　　　　記載例１）

○○市××町△丁目地先○○橋橋脚上流端から○○市××町■丁目地先■■橋橋脚下流端までの△△川の本流及び支流の区域

記載例２）川の合流点を区域の起点とし、流域が他県に及ぶ場合

■■市＋＋町●丁目地先の●●川と△△川の合流点から上流の■■川の本流及び支流のうち神奈川県管理水域

　　　　記載例３）漁業権免許に用いる基点を用いて表記し、さらに禁漁区については採捕を行わない場合

内共第○号の基点ＡＢ（Ａ：△△市■町×丁目地先に設置した標柱、Ｂ：同市○町△丁目に設置した標柱）を結んだ線から上流の■■川の本流及び支流の区域。ただし、神奈川県漁業調整規則第37条第○号に定める区域を除く。

記載例４）公園の池を採捕区域とする場合

●●市××町■丁目地先△公園内△△池の区域

　※採捕区域は申請書中に具体的に表記する必要があります。

図面はあくまで参考であるため、地図へ範囲を図示のみしただけで「別図のとおり」等とはしません。

また「別添計画書記載のとおり」とはせず、申請書内に直接記載する必要があります。

　７　使用漁具又は漁法の種類、規模及び数

　　　　　例）スキューバ式潜水器　２式

　　　　　○○型採泥器（△△㎡）４台

　　　　　びんどう（直径○cm、長さ○cm）２個

　　　　　小型底曳網（網口幅●ｍ、袖網長●ｍ、目合●mm、袋網長●ｍ、目合●mm）

　　　例）竿釣り　10本

　　　　　投網（目合●mm、網丈●m、目合●mm、網丈●m　各２反）４反

　　　　　びんどう（直径●cm、長さ●cm）２個

　　　　　手網（直径●cm、目合2mm)　３個

※漁具のサイズ、目合い、採泥面積（c㎡や㎡）等も明記してください。

採泥器や小型底曳網等を用いて調査を行う場合、特定水産動植物として指定されている「なまこ、あわび」が採捕される可能性があります。４の注記を参照し、特定水産動植物採捕許可をあわせて行ってください。

　８　採捕に従事する者の氏名及び住所

記載例）左側に氏名、右側に住所を記載します。

氏名　　　　　　住所

●×　太郎　　　●●市××町△－１１１

△△　花子　　　△△市■町■■　○○アパート２

※住所は法人等のものではなく、採捕に参加される個人のものを書いてください。

人数が多い場合、別表でもかまいません。

年齢や肩書き（〇〇研究所所属、〇〇漁業協同組合など）、電話番号等不要な情報は記載しません。枠線も不要です。